

2018 年度就職先へのグループインタビュー調査結果

本学卒業生の主要就職先である社会福祉法人（3 法人）に対して、2018 年 12 月に以下の 3 点について、グループインタビュー形式で同時にヒアリングを実施しました。

- ①本学の卒業時の質保証の取組および「学修到達レポート」について
- ②「学修到達レポート」の活用の可能性について

以下にその結果について報告します。

設問①：本学の卒業時の質保証の取組および「学修到達レポート」について

回答：

- (A 法人) 就職活動場面では成績証明書等も卒業見込みが出ているかというぐらいで、各科目の評価等を細かく見たりすることはないのが実情である。ただ、就職した後にあまりに極端なケース（職員として問題がある）については、遡って証明書を見て学生時代の傾向を見ることはある。
- (B 法人) 過去に貴学から採用した職員で、勉強はできるがコミュニケーション力が著しく低いということがあった。今回示された学修到達レポートも「落とすため」のものではなく、その学生の強み・弱みを見て、配属や今後どう伸ばしていくかを考えるツールにするということは考えられる。
- (C 法人) 率直に言ってわかりにくいので、もう少しわかりやすいものにしてほしい。その上でこういうものがあれば面接の際のきっかけとして活用できると思う。福祉の現場もユニット制で施設ごとの職員規模が小規模化する傾向がある。そういう現場では一人で判断する場面が多いため、判断力やコミュニケーション力は必須だと思う。
- (B 法人) 「働く」ことのイメージができていない。仕事を楽しいことというイメージで入ってくるが実際は仕事の 8 割は「楽しくない、つらいこと」で離職するケースも多い。大学時代から就労観を養うことが大切である。
- (A 法人) わからないことを「聞く」ことができない新卒者も多い。

設問②：「学修到達レポート」の活用の可能性について

回答：

- (B 法人) ジェネリックスキルを測定する外部試験で表現できているかどうか分からないが、福祉の現場は「気づき」が大事なので「問題発見力」は重要だと思う。以前に 4 年次に採用希望者の書いたレポートが評論家的で利用者が全く見えない内容だったため一度落として弱みや問題点を伝えた。その上で、再度トライしてきたので採用した職員がいる。最初にそのようなきっかけがあったため 5 年後大きく成長することとなった。その点で学修成果を採用側に見せていくことは一定有効だと思う。

以上

3. 正課外活動の成果

| | |
|--------|--|
| 所属サークル | |
| ボランティア | |
| 特記事項 | |

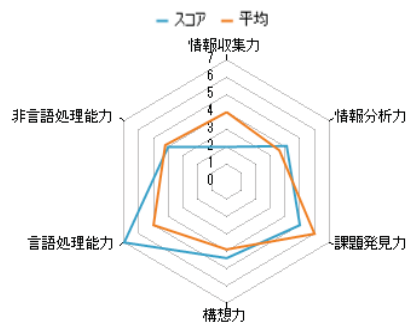
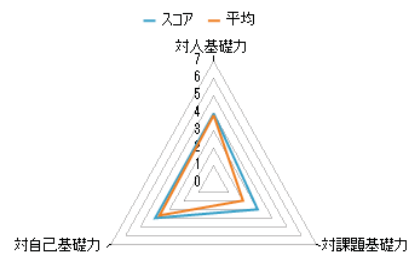
4. ジェネリックスキル・語学力等

コンピテンシー

| 分類名 | スコア | 平均 |
|-----|-----|----|
| | | |
| | | |
| | | |

リテラシー

| 分類名 | スコア | 平均 |
|-----|-----|----|
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |



語学力 英語能力

その他

5. 総評

ゼミ科目担当教員

教員 太郎

発行日 2018年4月18日

学長 児玉 善郎

